

客の看破と應對

陳列式の店舗にあると這つて來た客が物を買ふ客か素見客か一寸分らあいが私は大体に於て買ふ目的で來た客、安かつたら買ふといふ客、別に買ふ物はあいが氣に入つたら買ふといふ客、今は買はるいが品物丈でも見て置かうといふ客の四つに分ちまして應對致します第一の
買ふ目的で來た客は 大變にお世辞をふりまかずとも済む取扱の容易い客であるが第二の
安ければ買ふといふ客 にあると一寸手心か六つかしいけれども安ければといふのであるから是等の客は重もに品物の善惡よりも外見の立派あるを好む方と見て其向の品物を見せれば大体宜しい此種の客は價格を必ず値切り勝ちのものであれば其つもりで懸引すべきである第三第四の
氣に入りし物あらはといふ客と品物丈見て置かふといふ客 はつまり何を買ふといふ意思か無いのであるから其儘にして置けば歸つてしまふ故に此種の客に對しては盛に其購買心を煽り立てるのが専一で大に店員の技倆を要する譯であるそこで此四種中何れに屬するやを如何にして觀破するかといへばそれは店員の永い經驗の呼吸と客の様子に依つて察するより外に良法はないつまり具体的に説明出来る者でもい強いて一般的の觀破術をお話するあれば買ふ目的で來た客は其買ふと思ふ品物を第一に觀るし買ふといふ意思の無い客は別に目指す品物があるから商品に對する眼の配り方が異つて居る言は或一つの品物或種類の品に對して注視するといふことがあいといふ位のものである次に客の氣風を觀破してそれに合つた品物を見せるそれがあか／＼六ツかしい言葉、服裝、顔の表情等の外觀より之を察し其人の氣風に合ひさふある品物を見せるがよいやうである云々(某店員談)

商標は如何に選ぶ

土國長吉氏所說大要

歐米六大強國の富 力		高橋秀臣氏調査
英國	富力總額	二三八〇〇,〇〇〇,〇〇〇
人口一に對する富力	一〇三、一七〇,〇〇〇、六六八,〇〇〇	
國力	富力總額	一〇三、一七〇,〇〇〇、六六八,〇〇〇
獨國	富力總額	一七二、四〇〇,〇〇〇、九六四
人口一に對する富力	一九一、六〇〇,〇〇〇	
米國	富力總額	一五三、八八八,〇〇〇、〇〇〇
人口一に對する富力	一五三、五三〇,〇〇〇、〇〇〇	
露國	富力總額	一七〇、〇四四,〇〇〇、〇〇〇
人口一に對する富力	一六〇、〇〇〇、〇〇〇	
伊國	富力總額	一五五、五三〇,〇〇〇、〇〇〇
人口一に對する富力	一五五、二五〇,〇〇〇、〇〇〇	
日本	富力總額 (未だ調査中のもの)	二七、六六五、七六一、〇〇〇
(人口一に對する富力)	(韓國併合後調査中)	約 五〇〇,〇〇〇
府縣名	富 力 總 額	府縣名 富 力 總 額
東京府	二,四四、完六、八四	神奈川縣 一,四六、六七、八四
群馬縣	三九、八六、七六	千葉縣 一,〇一、三五、九一
山梨縣	三八、六二、二三	長野縣 四六、四六、七七
愛知縣	九九、九九、一六	福井縣 一,〇一、八五、八五
岐阜縣	五七、九四、五五	新潟縣 一,〇一、七〇、四六
福島縣	三九、八六、九一	石川縣 一,〇一、七〇、四六
山形縣	三九、九九、六三	青森縣 一,〇一、七〇、四六
岩手縣	三〇、五、五、一四三	宮城縣 一,〇一、七〇、三一
富山縣	五九、〇六、六九	秋田縣 一,〇一、七〇、三一
福井縣	四九、〇六、三八	和歌山縣 一,〇一、五五、二一
京都府	四九、九五、九八	大坂府 一,〇一、七〇、三一
奈良縣	三九、五、五、一〇三	高知縣 一,〇一、七〇、一九
兵庫縣	三九、九八、四八	佐賀縣 一,〇一、七〇、一九
廣島縣	五五、五、五、九七	山口縣 一,〇一、七〇、一九
島根縣	三三、九九、七七	鳥取縣 一,〇一、七〇、一九
德島縣	二六、四一、一〇三	香川縣 一,〇一、七〇、一九
大分縣	四〇、九五、二〇七	熊本縣 一,〇一、七〇、一九
愛媛縣	三九、八六、八〇三	宮崎縣 一,〇一、七〇、一九
長崎縣	九二、九九、一五	鹿兒島縣 一,〇一、七〇、一九
福岡縣	三九、四六、六一	
北海道	六七、五五、三〇、八一	
計	二,五五、三〇、八一	
	六六七、五五、三〇、八一	
	臺灣	
	沖繩縣	
	二,九五、五五、九一	
	七〇、五五、五五、五五	

臺灣の生産業

臺灣の俗謡「臺灣名物何々か、砂糖樟腦に烏龍茶をしてお米が二度採れる、山に黄金の花が咲く」とは能く臺灣の生産界を云ひ顯して居る、其重ある二三に就き説明を試みよう。臺灣生産の大宗たる砂糖は明治三十年に於て島外輸出數量は七千〇三十二万九千〇六十一斤三十一年の生産額は七千〇二十二万九千五百七十斤であつて、其作付甲數に如きも二万甲内外であつた、故兒玉總督は明治三十三年始めて臺灣糖業政策を立て、臺灣製糖會社を設立せしめ新式製糖を開始したが時未だ土匪横行時代であつた故其進歩意の如くならざりしも三十五年より更に大規模の糖業政策を進められた結果、三十六年に於ては甘諸作付甲數一万六千五百二十六甲、製糖高五千〇六十八万五百六十斤とあつたが、爾來甘諸苗の改良、甘蔗施肥、新耕法、耕地の灌漑、排水及製糖法の研究、製糖資本の投下等に盡力したる結果、四十三年期に於ては、現に運轉したる新式製糖器械の能力は九千七百六十噸餘鳥に於ける製糖高は三億二千五百万斤、甘蔗作付甲數は六万甲を算し、本年末より來年に渡る年季即ち四十四年に於ては新式製糖能力は一万七千百十噸、全島の砂糖生産高は四億三千萬斤を概算し、而して甘蔗作付甲數は九万甲を超過すべく、四十五年期に於ては更に新式製糖能力は二万五千噸に増加し、全島砂糖生産高は五億斤に達するの盛況を見るであらうと思ふ。

樟腦の如きは三十一年の產出は僅に百十萬斤で其價格も至て低廉であつた、百斤の價四十圓内外に過ぎなかつたが專賣法を施行して生産を保護したる結果、四十三年の生産高は七百斤を超過すべく、其價格亦前日の比ではある、米は元來能く生産せられたるもの之を十數年前に比すれば、今日に於て

り、少くも二割五分の増加を見年に依りて多少の豊凶あるも一ヶ年の生産は概略五百萬石に達し居る、食鹽の生産は明治三十一年に於ては、塩田面積僅に百六十二甲、一ヶ年の生産額四千万斤に充たむかつたが、今や其生産は期年を出てずして二億万斤に達せんとして居る、金銀其他の鑛物は舊時は殆んど之が經營として見るべきものあかつたが今や其生産額凡てを合すれば三百万圓を超過するの盛況である。

獨り烏龍茶は甚しき發展の機を見あいが、常に一ヶ年一千六七百万斤の生産額を往來して居る其他零碎なる農產品に至ては、近年著しく發達したが將來に於て最も發展の望みなるものは護謨類、樹脂類、纖維植物、香料藥料の諸植物であると思ふ牧蓄に付ても近來著しき發達の跡あり、山林の產物殊に木材の生産に於ては將來蕃界の整理成るの曉には著しく發展するであらう、又彼の阿理山檜材が内地市場に見るの期も、近く五六六年の間にあらうと思ふ。(拓殖局第一部長官尾舜治君)

朝鮮の農業は有望

朝鮮人は食ふ丈あれは遊んで暮すといふ習慣で餘分に物産を作り一層生計を裕かにしようといふ考か乏しいから農產物の施肥とか種苗農具の改良とかいふことに努めあい現に朝鮮の面積は日本の十分の六であるのに田畑は二百万町歩に過ぎぬ併し將來四百万町歩以上に達する丈の餘地はある。朝鮮の中で全羅、慶尚、忠清の三道は古來朝鮮の寶庫にして三南の沃野と稱して居るか現に耕地とあつて居る外にも手を下せば尙ほ良田もある場所がいくらもある之を總て日本式に耕作するときは朝鮮今日の人々ではとても足らぬ故に此三南地方

朝鮮の農業は有望

明治四十三年十一月二日午後四時三十分開會全六時閉會す出席及議事要領左の如し

役員會議

上野會頭　開會を宣し逐條審議の上別紙の通り答
申意見を決定し来る十二日臨時總會を開會提出
することに決す(別紙は九十號五頁にあり)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議の件

上野會頭　曰く本件は七月の定期總會に於て決議
し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既
に諸君御承知の通りあるか大水害の爲め政府に
於ても用務多端の折柄あるを以て差控へ今日に
及びたる次第を告げ別紙建議案を朗讀(別紙は

四十三年中の金融

議長(上野會頭)曰く本案の諮問を受くるや直に之を印刷し諸君の御手許に配付し御研究を願ふと同時に市内及縣下重もある諸工場主の意見を徴し役員會に於て審議討究すること二回にして只今總會に提出したる修正意見書案を決議したり云々と告ぐ

而して議長逐條審議としては如何と諮り一同之を賛成討議の結果多少各條に就き意見あきにあらさりしも結局役員會の修正意見を採用答申することに決す(第九十一號五頁参照)

四十二年中の金融

明治四十三年十一月二日午後四時三十分開會全六時閉會す出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

半
年
會
議

明治四十三年十一月二日午後四時三十分開會全六時閉會す出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

役員會

明治四十三年十一月二日午後四時三十分開會全六時閉會す出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し農商務省及朽木縣知事より工場法案に對する諮問を受けたるに付直に之を印刷に附し準備調査の爲め各議員并市内及縣下重もある諸工場に照會書を發し意見を徵する手續を爲したる旨を報告す

矢板常議員　曰く照會に對し回答來着の摸様如何上野會頭　曰く回答あきもの多數あるも答申の日限が本月十五日あるを以て之を待たず茲に不取敢役員會を開會し諸君の熟議を煩はさんとする所以あり

田中副會頭　曰く本件は工業主としては重大の關係を有する問題あれは會議所に於ても出來得る限り其意見を徵し参考に供し討査研究するの要ありと信す就ては向ふ數日間回答を待ち役員各自に於ても夫れ迄に研究を遂げ再び役員會を開き總會に提出すへき役員會の意見を決定するこゝしては如何

右發議に衆議一決し来る七日を期し再び役員會を開會することとし閉會す

役員會

役員會

明治四十三年十一月七日午後四時三十分開會全七時閉會出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
村上濱吉	村山金平	村土濱吉
篠崎安平	武福田富次郎	吉田源吉郎
矢板直三郎	相場直三郎	

上野會頭　開會を宣し逐條審議の上別紙の通り答申意見を決定し来る十二日臨時總會を開會提出することに決す(別紙は九十號五頁にあり)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議の件

上野會頭　曰く本件は七月の定期總會に於て決議し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既に諸君御承知の通りあるか大水害の爲め政府に於ても用務多端の折柄あるを以て差控へ今日に及びたる次第を告げ別紙建議案を朗讀(別紙は九十號四頁に在り)し一同異議あく之を決定す

臨時總會

明治四十三年十一月十二日午後四時開會至五時三十分閉會す出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
吉田源吉郎	村山金平	大野七兵衛
久我彌平	木村作次郎	横倉正吉
石田常造	河合長藏	柿沼新次郎
特別議員 本多錄吉		

議長(上野會頭)　開會を宣し第一に關東商業會議所聯合會の議事經過を報告する旨を告く

一、關東商業會議所聯合會議事報告の件

四番(田中勝次郎君)　本聯合會は第五回にして高崎市に開會せられたるか本會議所よりは上野會頭齋藤副會頭及小生代表委員として出席したりとて各會議所の出席者提出議案決議の次第を別紙報告書に據り詳細報告す(別紙は第九十號四頁に掲げたるものと異ならず)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議報告の件

四番(田中勝次郎君)　本件は七月の定期總會に於て決議し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既に諸君御承知の通りあるか此程遞信大臣へ建議したりとて建議書を朗讀す

三、工事去案に對する答申意見決定の件

高寺惠會

上野會頭　開會を宣し逐條審議の上別紙の通り答申意見を決定し来る十二日臨時總會を開會提出することに決す(別紙は九十號五頁にあり)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議の件

上野會頭　曰く本件は七月の定期總會に於て決議し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既に諸君御承知の通りあるが大水害の爲め政府に於ても用務多端の折柄あるを以て差控へ今日に及べたる次第を告げ別紙建議案を朗讀(別紙は九十九號四頁に在り)し一同異議なく之を決定す

臨時總會

上野會頭　開會を宣し逐條審議の上別紙の通り答申意見を決定し来る十二日臨時總會を開會提出することに決す(別紙は九十號五頁にあり)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議の件

上野會頭　曰く本件は七月の定期總會に於て決議し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既に諸君御承知の通りあるか大水害の爲め政府に於ても用務多端の折柄あるを以て差控へ今日に及びたる次第を告げ別紙建議案を朗讀(別紙は九十號四頁に在り)し一同異議あく之を決定す

臨時總會

明治四十三年十一月十二日午後四時開會至五時三十分閉會す出席及議事要領左の如し

上野松次郎	田中勝次郎	齋藤太兵衛
吉田源吉郎	村山金平	大野七兵衛
久我彌平	木村作次郎	横倉正吉
石田常造	河合長藏	柿沼新次郎
特別議員 本多錄吉		

議長(上野會頭)　開會を宣し第一に關東商業會議所聯合會の議事經過を報告する旨を告く

一、關東商業會議所聯合會議事報告の件

四番(田中勝次郎君)　本聯合會は第五回にして高崎市に開會せられたるか本會議所よりは上野會頭齋藤副會頭及小生代表委員として出席したりとて各會議所の出席者提出議案決議の次第を別紙報告書に據り詳細報告す(別紙は第九十號四頁に掲げたるものと異ならず)

二、宇都宮小山兩驛間複線敷設建議報告の件

四番(田中勝次郎君)　本件は七月の定期總會に於て決議し建議書の作製を役員會に一任せられたるは既に諸君御承知の通りあるか此程遞信大臣へ建議したりとて建議書を朗讀す

三、工事去案に對する答申意見決定の件

麻
務

文にても日本農夫の百萬人位移住したといへる。朝鮮と
衝突する氣遣は少しも無い三南以外平安黃海兩道
の如きにも農業に至極適當した原野がある。然るに
日本人の買つた田地すら皆朝鮮人まかせに耕作さ
せて居るやうであるから日本式の農法を傳へること
とか出來ぬのは遺憾である云々(在韓米氏談)

宇都宮驛貨物發着調查表

品目	四十三年一月迄
發送	四十二年一月迄
到着	ヨリ十一月迄
發送	四十二年一月迄
到着	ヨリ十一月迄
發送	四十二年一月迄
到着	ヨリ十一月迄
比較	

明治四十四年一月一日

都宇宮商業會議所月報

號二拾九第「八」

世よ處しては必ずしも功を邀めざれ

過ちなき便ちはれ功なり。(菜根)

○自利と他利とは車の雙輪

◎自利と他利とは車の雙輪道は一つで、種々の煩悶苦難の境界から脱がれて、
福德圓満智用自在真境に達する道であり升、申す
までもなく歩行には兩足か入用で乗車には雙輪が
必要です假りに此兩足の各々が勝手次第に達つた
方向に行かふとすれば必ず其人間は倒れます若し
車の輪が一は前に他は後に行くとすれば其車は轉
々廻つて遂に河に田圃に陥ち込み升そこで二本の
足と車の雙輪とは何れも一つ思ひで一つの方向に
行かねばあらぬ如く實業家の自利と利他とは人の
兩足車の雙輪に於けるが如く離すべからざる關係
を有つて居り升から双方の利益を調和して互に實
益を得ると云ふ方向に達する様にせねば何ふして
も其實業家は進歩出來ませぬ此自利利他と云ふこ
とを今少し具體的に云ひますれば製造家は使用者
の身分にあつて親切な物品を製造して出来る性格
安にする商業家は買手の身分にあつて是れあらば
自分が買ふても満足すると云ふ様な品を其れ相當
の値段で賣ることに自利と利他とか調和して相方
共に進歩發達することが出來ます若し自利と利他
とが背反する場合には正義の許す限り自利に薄ふ
して利他に厚ふする方が却て自分の將來の爲めに
も又社會の發達の爲めにもあつて自利利他の本意
にも叶ふとにあるのであります

ありとあらゆる世の幸福は他の爲め謀るに成るが
かしありとあらゆる苦るしみは自利のみ求むるに
成るご知れと命ぜられました御佛の金言は實地に
活躍として顯れて居ります(某佛教家談)

の二條で糊口を凌かん爲めに饅頭屋を開いた今でこそ饅頭といつても格別旨いより外よ珍しいとも可笑しいとも思はぬが當時は「何て妙な物だらう」といふ珍妙な大評判にあつて忽ち京の名物の一に數へられた此男大に考ふる所あり我國に歸化して姓を塩瀬と改めた之が我國に於ける饅頭の元祖である村上天皇の代に足利義政公が此饅頭を頗る賞翫されて桐の御紋と「日本第一番本饅頭所」といふ看板を許された之れが我國に於ける看板の滥觴である今の數寄屋橋畔の塩瀬といふ菓子屋は其流に使はれて來て豊臣時代より徳川時代に至つて驚くべき進歩發達を來した(實業の世界)

○卸小賣の口錢歩合

◎注意すべき判決例

任期満了前に於ける會社重役の選舉も有効

會社重役の豫選を許すや否やは從來法曹界に論議せられたる問題にして裁判所は寧ろ之を許さずとの方針を探り來れり然るに満鐵會社は昨年六月の定期總會に於て同年十一月任期の満了するべき監事の後任者選舉を行ひ東京區裁判所に其選任登記を申請したる處同裁判所は從來の取扱通りに之を不法として登記申請を却下したるに依り満鐵會社は之を不當として抗告を爲したる處東京地方裁判所も亦決定を認めたるに依り同會社は更に願間辯護士高根博士に依頼して再抗告を爲したる結果東京控訴院は過般原決定を取消す旨の決定を與へたり其理由とする所は株主總會に於てする監査役の選任決議は私法上の効果を生ずる意思表示にして意思表示には條件又は期限を附することを得べく而して豫選の行爲は條件若くは期限を附するの法律行爲にして有効あり尙ほ監査役は會社必須の機關にして寸時も缺位を許さず然るに若し豫選を許さざれば其缺位を生ずることを免れざるが故に豫選は法の認むる所なり然れども法律が監査役の任期に限定したるの趣旨よりすれば將來數期間に涉る監査役の豫選を爲すが如き若くは少くも一年前に次の監査役を選任するが如き普通の智識経験より見て監査役の任期を事實上伸長するが如き法律の裏面を潜る脱法行爲は不法たり故に其豫選の有効あるや否やと云ふことは其豫選の目的を以て行はれたるや否やによりて決すべく豫選の時期と前任者の任期満了の時期の長短に依りて決すべしものにあらずと云へり從つて從來會社當局者の困難とせし難問題も玆に常識的解決を得たるものと謂ふべきありと

○注意すべき判決例

任期満了前に於ける會社重役の選舉も有効

軽便洋食 壹品十三種均一 三笠軒 都宮市町野曲師町電話六三九番 牛乳ビル牛乳類 生ビール 和洋酒類

て芳香佳味且つ
廉價なり江湖の
諸君奮て御試用
あらん事を乞ふ



千秋
奪色多

菊の友は原料を
精撰し學理を應
用し最も斬新な
醸造方法にし



宇都宮市川向町
電話一四八番
下野倉庫株式會社

貨物、保管、荷爲替取組

關澤商店列館



宇都宮市立獨商澤館
下神明市工劔品平略
列館治敬(ケヒ)

宇都宮市の中二荒山神社の坂下ゆへ
土產物御求まは至極御便利であり升
独立の勧工場にて市中無類第一の廉
價正札附に致してあり升

流行品は他店に魁くるは申す迄もな
く花客様にて御承

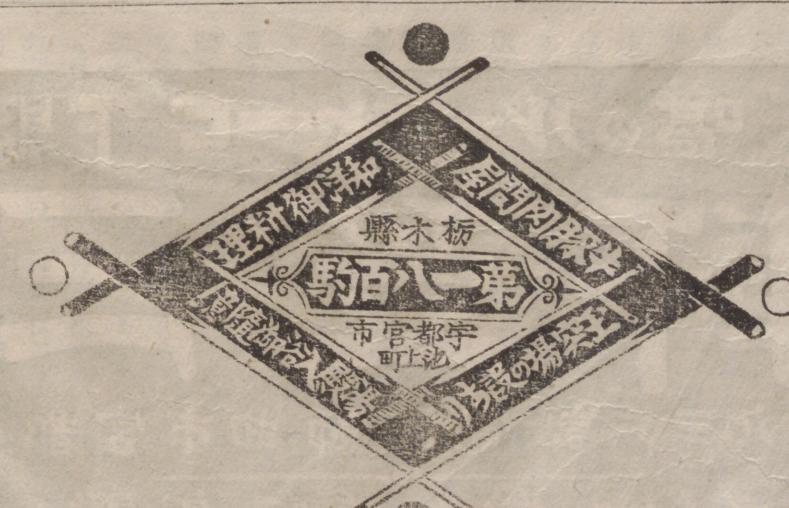
知の筈てあり升
品が善く
て直が安
く有ご有
ゆる品は
取揃てあ
ります

參拾金本店宇都宮市宿郷町三番地
支店東京府北芦住中組五八五番地
電話二〇七番

電話下谷一八八三番

和洋御料理及天麩羅原料
は元濱方と特約日々新鮮
のものを選み直輸入風味
と衛生を重んじ御手軽

迅速は最も第一の特色



番六百七 番二百二 電話

内外肥料

天

手塚 豊吉

電話二三一一番
電略(テツカ)又ハ(テ)

宇都宮市上河原町

●大坂曹株式會社製品特約販賣
●見本ハ御一報次第ニ早速御送可申上候

牛肉の原料は有名なる神
戸米澤豚肉は海外より特
種の者を選み品質精良價格
に缺さる日常食品の親玉

明治四十七年六月四日
郵便種三第三號

營業品目

藥品賣藥醫療器械
理化學器械
寫真器械附屬一式
コシデンスミルク特約店

木村作次郎
宇都宮市馬場町
日光中鉢石町
電話百十一番

大谷石材販賣
宇都宮市川向町停車場前
大谷石商會

本仲
宇都宮市坂本
電話四〇八番

光力電燈より光強し
アセチリン瓦斯
料金
其他機具一式
御注文ニ應シ取付其他點燈迄一切請負可申候
一報次第貢出張萬事御協議可申候

海陸產肥料各種
入山石炭各種一手販賣
好間石炭各驛一手販賣
無煙炭各種大販賣
宇都宮市石町
針屋
村上濱吉
電話三三番

大谷石材販賣
宇都宮市坂本
電話四〇八番

諸建築木材供給受負
戶障子廉價販賣
諸建築工事請負業

宇都宮市千手町
洋紙卸商上油屋紙店
相場直三郎
電話四〇八番

肥料
藍
眞繩
宇都宮市本郷町廿八番地
商號久喜屋

福田恒吉
電話三〇六番

諸建築木材供給受負
戶障子廉價販賣
諸建築工事請負業

洋紙卸商上油屋紙店
相場直三郎
電話四〇八番

肥料
藍
眞繩
宇都宮市本郷町廿八番地
商號久喜屋

福田恒吉
電話三〇六番

諸建築木材供給受負
戶障子廉價販賣
諸建築工事請負業

洋紙卸商上油屋紙店
相場直三郎
電話四〇八番

肥料
藍
眞繩
宇都宮市本郷町廿八番地
商號久喜屋

福田恒吉
電話三〇六番

行發日一月一年四十四治明
錄附號二拾九第報月所議會業商宮都宇

日四十月六年七卅治明
可認物便郵種三第

謹賀新年 謹賀新年

小網製衡所



宇都宮市日野町

電話六二八番
振替口座一八四〇四

宇都宮市
佐野常津服店

電話(長)拾五番

宇都宮偕行社消費組合指定特約店
茶新炭 那須屋
家具油類 商
田中勝次郎

砂糖 塩 宇都宮市大工町
小麥粉 卸 保田糺太郎
肥料 商 電話四二九番

砂糖 塩 宇都宮市杉原町
肥料 戶室屋 電話二七番

肥 料 商 福田 恒吉
電話三〇二番

太 村山太助
肥料 商 電話五三七番

大谷石材採掘販賣
石材問屋 渡邊貞三郎
土木請負 電話一四二番

大谷酒類 問屋 渡邊貞三郎
宇都宮市傳馬町
伊勢屋 電話五三七番

米穀商 田中利三郎
宇都宮偕行社指定特約店
那須屋 電話四二二番

行發日一月一年四十四治明
錄附號二拾九第報月所議會業商宮都宇

日四十月六年七卅治明
可認物便郵種三第

謹賀新年



行發日一月一年四十四治明
錄附號二拾九第報月所議會業商宮都宇

謹賀新年

日四十月六年七卅治明
可認物便郵種三第

大谷石材採掘販賣所

合資 大谷石材會社

本社

栃木縣河內郡城山村大字荒針
宇都宮市傳馬町十六番地

電話 六五八番

宇都宮市小路町

電話

三一六番

肥料商 命河合長藏

電話

アワニ番

人山石炭
秋茨好城無煙炭
山石炭

特約一手販賣店

士村上濱吉

電話 三三番

謹賀新年

宇都宮市日野町二十九番地

小間物 錄喜號

雜貨商

宇都宮市宮島町

電話 四三番

電畠 (ハリキ)

謹賀新年

古着太物商 小松屋

齊藤太兵衛

宇都宮市川向町

電話 二四二番

謹賀新年

ライジングサ

シ石油會社輸入販賣元

タンク石油商會

宇都宮市川向町

電話 二五九番

謹賀新年

宇都宮市新石町十三番地

下野石材合資會社

大石洋紙商

電話 三五番

振替口座 五六三番

電話 三四七番

ア四〇番

相場直三郎

宇都宮市千手町

電話 五三番

大森勝之助

宇都宮市曲師町

電話 三四七番

宇都宮市上河原町

砂糖石油和洋製粉

田原屋

臣

マツチ

特約販賣

武内大

洋

粉

水餡

米

麥

粉

豆

類

物

類

物

類

物

類

物

類

物

類

物

類

物

類

物

宇都宮市新石町十三番地

宇都宮市千手町

宇都宮市新石町十三番地

宇都宮市新石町十三番地</p

謹賀新年

日四十一年七月廿四日明治
可認物便郵種三第

肥料商 余 福田 音吉
宇都宮市上河原町
號

營業用紙
和洋紙
名刺用紙
印刷インキ
各國印商
土丹野小間紙類
印刷
筆墨類一式

肥料商 大 荒川 藤吉
宇都宮市大町
號

小 池壽惠
宇都宮市停車場前
會津屋
漆器店

さ 坂本運送店
宇都宮市川向町停車場前
店主 坂本茂十郎
電話 一一六六一一番

第十四師團宇都宮偕行社消費組合指定特約店
洋 玻璃器
ガラス板

上 瀧澤商店
宇都宮市八日市場
店主 鳩田信農
電話 八二四番(甲) 四四九番(甲)

大 江戸新染物店
宇都宮市曲師町
店主 柿沼新治郎
電話 六五五番 五五五番

濱田屋洋品店
宇都宮市池上町三十五番地
店主 鳩田信農
電話 八二四番(甲) 四四九番(甲)

菊池嘉助
生糸絹糸類
佐野屋
毛糸打紐打線
下野國宇都宮郵便局區内鉄砲町

横田洋服店
宇都宮市池上町北側
電話 (八一二番)

江戸洋服店
宇都宮市曲師町
電話 六五五番 五五五番

寺澤石
大谷石
採掘販賣
石材
間屋
店主 大谷石商會
電話 (四〇八) 五零零(十九) 振替口座 一〇四七六番

恭賀新年
明治四十四年一月元旦
辯護士
從五位
勳五等
石川文之助
宇都宮市停車場前
電話 (四〇八) 五零零(十九) 振替口座 一〇四七六番

K 菊池運送店
陸軍 運搬
全
電話 四〇七番 二四三番

大 島村吳服店
吳服商
太物升屋
宇都宮市相生町
電話 六〇八番

六 玉勇吳服店
吳服商
太物升屋
宇都宮市千手町
電話 四九番 二二三番

稻子喜七
稻子喜七
太物升屋
宇都宮市相生町
電話 六〇八番

電話 (二〇三番) 一〇九番

謹賀新年 手塚五郎平
日野屋吳服店
電話 三三九番 一四番

謹賀新年
合名
宇都宮市大工町

安田銀行宇都宮支店
宇都宮市大工町

本
電話 一五〇番

三共
太物升屋

宇都宮市相生町

電話 六〇八番

稻子喜七

太物升屋

宇都宮市相生町

電話 六〇八番

酒銘 菊の友
醸造元 新村仙吉
電話 八二二番

宇都宮市蓬萊町
宇都宮市傅馬町

電話 三三九番

一四番

八二二番

酒銘 菊の友
醸造元 吉田源吉郎
電話 八二二番

宇都宮市蓬萊町
宇都宮市傅馬町

電話 三三九番

一四番

八二二番

特許木糸透織各種
神野商會
宇都宮市旭町二丁目(新地街道)
電話 八四六番

宇都宮市蓬萊町
宇都宮市傅馬町

電話 八四六番

八二二番

八二二番

陸軍用達
諸官衙用達
株式會社 宇都宮商會
宇都宮市新石町四番
電話 四四五番

宇都宮市蓬萊町
宇都宮市傅馬町

電話 四四五番

八二二番

八二二番

洋御料理 三笠軒
宇都宮市大工町
電話 五六二番

宇都宮市大工町
宇都宮市大工町

電話 五六二番

五六二番

五六二番

新年 恭賀 三矢印麵類製造元
宇都宮名產
宇都宮市塙田町五十一

山川洋服店
新 年
小杉製麵合名會社
電話 四四五番

明治四十四年一月一日發行
明治四十年十月六日第七冊登記
第3種郵便物認可會業商官都字號第299號

謹賀新年

外種肥料料

賣

元肥料

鹽

日光線鶴田驛前

同

支

電話七五〇番

店

村山金平

電話長二九〇番

振替口座七九四三番

東京人造肥料株式會社製品特約店

宇都宮市大工町

星河興業販賣五古

宇都宮市千牛町

宇都宮市大工町

明治四十四年一月一日發行
明治四十年十月六日第七冊登記
第3種郵便物認可會業商官都字號第299號

謹賀新年

青雜貨物

宇都宮市押切町

電話三四八番

藥學師

宇都宮市大工町四十一番地

凱旋堂藥舖

軍用振替口座

電話四〇五番

同真岡支店

電話三〇〇番

同

日光支店

電話三〇〇番

同

光支店

電話三〇〇番

同

新石町支店

電話二二三番

同

明治四十四年十一月一日發行
第十九號月報所議會業商宮都字

新年謹賀

明治四十四年六月十日
第三種便郵物認可

謹賀新年

法學士

辯護士

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

謹

賀

新

年

新年謹賀



砂糖

紙

疊

表

、

麻

、

繩

、

燭

、

線

、

香

、

燐

、

油

、

水

、

元

、

結

、

塔

、

印

、

蠟

、

燭

、

燭

、

蠟

、

蠟

、

蠟

、

蠟

、

蠟

、

蠟

、

蠟

壁

用

品

一

式

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

砂

糖

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

砂

糖

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、</p

行發日一月一年四十四治明
錄附號二拾九第報月所議會業商宮都宇

謹賀新年

日四十月六年七卅治明
可認物便郵種三第

年賀謹

専門人像

山本寫眞館

電話四〇一番

宇都宮市旭町

年賀謹



上田屋小間物店

謹

年

全

全

出

支

社

株式

會社

宇都宮

財

蓄

銀

行

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

年

全

全

出

支

社

株式

會社

宇都宮

財

蓄

銀

行

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

會

社

宇

都

宮

變

壓

所

電話五〇一一番

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

所

宇

都

宮

變

壓

新年賀謹

明治四十四年一月一日發行
宇都宮商業會議所報第十九號

明治廿七年十月四日
郵便種三種認可

第五回 電話開通ノ祝ス

宇都宮市材木町二十七番地
松本屋

五六十番 松本宗太郎 糊紙商

宇都宮市材木町八〇番地
池田屋

五六八番乙 池田幸吉 米穀商

宇都宮市材木町二十五番地
油屋

五六九番 川上榮藏 凍水綿糸商

宇都宮市材木町七拾七番地
八百兼

一一三番 宮川虎吉 青物乾物商

宇都宮市馬場町拾壹番地
黃金水本舗藤井愛生堂

八六六番 藤井源太郎 藥種賣藥商

宇都宮市池上町六番地

一一三番 渡邊千代之助 乾物果實商

宇都宮市馬場町二十六番地
石田屋

八六七番 青木啓 洋物雜貨商

宇都宮市泉町十三番地
大津屋

八六五番 大谷津政一郎 木材薪炭商

宇都宮市蓬來町三十番地
米兵

八六〇番 坂本仲 石材商會

宇都宮市小傳馬町二十六番地
石田屋

一〇五番 菊地貞太郎 肥料食鹽商

宇都宮市小傳馬町二十六番地
石田屋

八六〇番 新村仙吉 酒造業